



## **B.S. アキノ：「あなたの来日は歓迎されていない」**

「ベニグノ・アキノ三世大統領の来日は歓迎されていない。フィリピン民衆に対する彼のすべての罪のために、彼は私たち民衆を辱めている。彼は、民衆としての私たちの尊厳と民族としての主権をこれ以上傷つけることをやめねばならない。」

新民族主義者同盟 (BAYAN) 日本支部は、アキノ大統領が今年 4 月に安倍政権との間で「防衛協力・交流のための覚書」に調印したことを非難する。この覚書は、日比両国による 2012 年 7 月の「防衛協力・交流のための意図表明文書」の発表以降、2012 年から開始されてきたフィリピン国軍と日本の自衛隊との合同軍事訓練・演習を制度化しようとするものだ。最近では、今年 5 月 6 日にフィリピンと日本の沿岸警備隊による合同訓練が実施された。さらに、5 月 12 日には、日本の海上自衛隊がフィリピン海軍と共に、係争中のスプラトリー諸島（南沙諸島）に近いルソン島サンバレス州の沖合で合同軍事演習を行った。日本からは 600 人の自衛隊員を乗せた「はるさめ」と「あまぎり」という二隻の護衛艦が、フィリピン海軍からはフリーゲート艦「ラモン・アルカラス」がこの合同演習に参加している。

新民族主義者同盟 (BAYAN) 日本支部は、これらの合同軍事演習は、フィリピン、中国、ブルネイ、マレーシア、台湾、ベトナムが領有権をめぐって係争中のスプラトリー諸島（南沙諸島）においてだけでなく、アジア太平洋全域での政治的・軍事的緊張をますます作り出すものだと考える。それはまた、主権国家間の領有権をめぐる紛争への日本の介入に道を開き、軍事大国であった過去に戻ろうという日本の野望に火をくべるものである。

アキノ大統領による「防衛協力・交流に関する覚書」の承認は、火遊びのようなものだ。彼は第二次世界大戦のあいだに日本がフィリピン民衆に対して犯した、今も記憶から消し去ることはできない身の毛もよだつ犯罪の数々を忘れてしまっているのではないか。日本の再軍事化を許すことは、第二次世界大戦期にフィリピンのためにたたかい、それに殉じた人々のヒロイズム、日本による戦時残虐行為の被害者の記憶を冒瀆するものだ。

アキノ大統領がしているのは、日本に再軍事化を促すことだけではない。彼は経済成長を大変自慢しているが、それは私たち大多数の貧しいフィリピン民衆のところには届いていない。富める者がますます富み、貧しい者はますます貧しくなっている。彼は、メアリージェーン・ヴェロソの身に起こったことが繰り返されるのを避けるためにも、労働力輸出政策の推進ではなく、フィリピン民衆のために国内で雇用を創出することに焦点をあてねばならない。彼の反汚職キャンペーンは自分の政治的ライバルに対してだけでなく、すべての政治家に向けられねばならない。彼は失敗した農地改革計画をやり直し、最高裁判決に従って、自分の家族が所有するルイシタ農園の土地の再分配を開始しなければならない。大統領任期があと一年に迫るなかで、アキノ大統領は彼がなさねばならないことに再び焦点をあて、実行しなければならない。

**日比安保安防協力協定反対！**  
**日本の再軍事化反対！**  
**フィリピン民衆に土地、仕事、生計手段を！**  
**労働力輸出政策反対！**

新民族主義者同盟 (BAYAN) 日本支部  
2015 年 6 月 2 日